様式第６号(第２１、２２条関係)

開　催　記　録

名　称	令和２年度第２回吉川市下水道事業審議会
開　催　日　時	令和２年１０月１６日(金)　午後　２時００分から 午後　３時５０分まで
開　催　場　所	吉川市役所３０４会議室
出　席　者　数	９名 出席委員：菊池委員、小山委員、伊藤委員、大泉委員、 中島のり子委員、戸張委員、阿部委員、佐々木委員、 大矢委員 欠席委員：飯塚委員、中島隆一委員
説　明　員　氏　名	
担当課職員職氏名	河川下水道課　課長　多田　文武、課長補佐　曽我　幸央
次　第	別添参照
資　料　の　名　称	別添参照
開催記録の作成方法	□録音機器を使用した全文記録 □録音機器を使用した要点記録 ☑要点記録
内　容	■議事 １．吉川市下水道事業審議会の会議傍聴等要領について 事務局より「吉川市下水道事業審議会の会議傍聴等要領（案)」について説明。 【質疑応答】 伊藤委員：吉川市全体で統一した簡潔明瞭な要領を策定してはどうか。 菊池会長:伊藤委員のご指摘については、意見ということでよろしいか。 伊藤委員：了承する。 【採決】 異議なしと認め、吉川市下水道事業審議会の会議傍聴等要領を可決される。 ２．下水道事業の現状と今後の見通しについて 事務局より「令和２年度第２回吉川市下水道事業運営審議会資料」に基づき説明 【質疑応答】

	大矢委員：減価償却費による内部留保を考慮して、このシミュレーション結果なのか 事　務　局：企業債の返済に充てているため、資金留保ができていない状況である。そのため、このような結果となっている。 菊池会長：管渠を現在の耐震基準に合致させる更新投資が必要となる。また、問題視すべきは、ここ数年の有収率の低下であり、対応策を執る必要がある。現状、処理費約２億５千万円のうち、１割は雨水等不明水に要している。将来的には更に悪化することを見込むべきである。 菊池会長:耐用年数を1.5倍とした場合のシミュレーションについては、全国的な傾向を見てもシミュレーションどおりに行くとは限らない。最悪を想定して、更新投資には更なる金額を要する可能性を考慮すべきである。一方で、将来世代に負担をかけないという観点では採用に値する。 伊藤委員：耐用年数の前提が、いささかあいまいではないか。 菊池会長：個別の使用状況等に基づくため、仮定を置かざるを得ない。現実的には耐用年数の 1.5 倍までが限界である。 伊藤委員：新興住宅に関しては、耐用年数をより長く設定することでシミュレーションすべきでないか。 大矢委員：現在と過去のヒューム管の製法は変わらない。そのため、現状の想定としては妥当と考える。環境によらざるを得ず、平均的耐用年数に依らざるを得ない。 小山副会長：料金改定は避けることのできないものと感じる。下水道使用料の改定は簡単に行えるものなのか。 事　務　局：条例改正が必要なため、議会を通す必要がある。 伊藤委員：一般会計からの繰入基準はどのようになっているか。また、汚水を最優先に協議すべきではないか。 事　務　局：基本的に雨水経費は一般会計から賄い、汚水経費は下水道収益から賄う。一般会計にも限度があるため、雨水に関しても財政当局と協議しつつ、今後の計画を策定する。 ３．課題に対する対応策について 【質疑応答】 大矢委員:耐用年数を1.5倍とした場合のシミュレーションのみならず、抜本的な対策が必要と感じる。管に FRP を挿入する案はどうか。流量は下がるが、強度が上がりコストダウンを図れる。

	菊池会長：現状かなりコストがかかるのが実態である。ただし、普及すればコストが下がることも考えられるため、検討すべきである。 菊池会長：集合処理を老朽化時点で廃止し、個別に行いダウンサイジングしている自治体がある。現実的に将来はこのようなドラスティックな対応策が必要となる。これらを考慮した上で経営戦略を策定すべきである。 伊藤委員：基本方針のうち水質改善は、どのように行うのか。 事　務　局：流域下水道の事業体と協力して取り組むこととなる。 ■その他 今後のスケジュールを事務局より説明。 ・11 月 27 日：第３回審議会（経営戦略の素案を審議） ・１２月中旬から１月中旬：パブリックコメントの実施 ・２月５日：第４回審議会（パブリックコメント実施後の修正案を審議）